

# 教務だより

2016年8月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 「Win-Win」の夏がやってきた！

茗溪塾塾長 宇野雅春

受験で成功するためのキーワードは、ここまで「自立」でしたが、自立しているだけで成功するとは限りません。社会の中で生きているわけですから、人とのコミュニケーションなしに「成功」はないからです。とても素晴らしい授業のできる先生でも、生徒とのコミュニケーションがなかったり、周りの先生や父母との協力関係が築けなかったりすると、本当の意味での良い指導は難しくなります。教育に携わるのに、「自信」とか「確信」とかは本当にいいことなのでしょう？一人ひとり違う人格の生徒たちに、全く同じ指導をすることが正しいとは思えないのです。常に悩みはつきまといますが、自分の方法論で出来上がってしまうより、受験の一回一回を共に悩み戦い抜く方がいいと最近思うようになりました。

子供同士で問題が起こったりすると、解決が即できないことを「指導力がない」と思う方が多いようですが、実は大人の「一喝！」で解決しそうな「子供の問題」がそう簡単に解決しないということ…。これは経験すればするほどわかるものです。

すぐにうまくいかなくとも悩みながら最善を尽くすこと、子供の成長にある意味賭けるといふ気持ちも大切だと思います。一方で子供がどう成長するのが重要と思うのです。

長い夏期講習こそは子供が良いにつけ、悪いにつけ変わる時期です。一気に受験を放棄してしまう楽な方向に逃げないでほしいと切に思います。どうしても「勉強」＝辛いこと、もしくはいやだけれどやらなくてはいけない必要悪、「勉強」＝自由の制約ととらえる傾向があり、遊びたいだけの子供がそこに依存して、結局は無為に終わります。「勉強」と「遊び」は両立できることで、対立するものではないということをおわかってほしいと思います。

受験生も11月ごろになると、皆な必死になるのに、夏はだれてしまう生徒もいます。

夏こそは、学習に専念できる時間が取れますので、学ぶこと、努力することの「喜び」を実感するチャンスととらえるべきと思っています。

8月からは先生方全員でWIN・WINのTシャツを着ます。合宿や短期集中特訓でも着用しますが、受験にとって一番大切なコミュニケーションが、WIN・WINと考えるからです。WIN・WINは「ともに勝つ」という考え方です。受験におけるWIN・WINは、ともに「合格」を喜びあえる人間関係ということ。そう簡単に得られないものかもしれませんが、でも合格体験記の多くは、ともに学んだ友がいたから頑張れた！というものがほとんどです。それぞれ目標が違っていても、一緒に頑張り、ときには競い、ときには励ましあって、目標を達成していくことは、おそらく社会生活の基本だと思います。

合宿や集中特訓では、スケジュール管理をしながら、より有効な勉強法や時間の使い方を学びます。受験合格の大事な要素である朝型生活習慣づくりも、集中的にまとめてできるこの時期だからこそその内容です。やるべきことを一生懸命やって「WIN・WIN」の基礎を作る。この夏の後半、それを目指すことで「遊び」以上の充実感があるはず。です。